

## 学術研究推進助成実績報告書 (中間・完了)

平成 28 年 10 月 19 日

公財岡山工学振興会

代表理事 古賀 隆治 殿

(所属機関名) 川崎医科大学循環器内科学

(申請者名) 吉田 清



※研究期間に応じ、報告書の中間・完了のいずれか該当のものを○で囲ってください。

研究題目	虚血性心疾患の病態解明と新しい治療法の開発	
研究期間	H26. 4. 1~H28. 3. 31	
共同研究者	氏 名	所属機関 (職名)
	大倉 宏之 根石 陽二	川崎医科大学循環器内科学・准教授 川崎医科大学循環器内科学・講師
研究題目について の研究発表	発表した学協会名と期日	発表した会誌等
		1) Obase K Yoshida K., Circ Cardiovasc Imaging. 2016 ;9(10)e005621 . 2) Obase K.et al. Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2016 17(5):500-9.
研究概要	<p>虚血性僧帽弁逆流は予後不良の疾患であり、本症の発症メカニズムの解析や、新しい手術法の開発は、臨床上極めて重要である。</p> <p>経食道 3 次元心エコー図法を用いて、虚血性僧帽弁逆流症例の僧帽弁下部の詳細な観察を行った。軽症の虚血性僧帽弁逆流例では、腱索の長さが重症例に比べ長く、特に後尖に付着する腱索長は、軽症例で有意に延長していた。このことは、腱索延長が僧帽弁 tethering を軽減し、弁接合を大きくし、逆流を軽症化することに貢献していることを示している。本結果は、僧帽弁形成術を施行の際、人工腱索の長さを考慮するうえで極めて有用な情報となりうると考えられた。</p>	